

いよいよ中国で木造軸組住宅が建築可能に



広東省東莞市に整備した軸組工法のモデル住宅の構造外観

2010年にスタートした中国の「木構造設計規範」の改定作業が終わり、2017年11月に公告された。2018年8月に施行される予定だ。同規範は、日本の建築基準法に相当する。

同規範の改定作業には、日本から(一社)日本木材輸出振興協会などが参加し、日本産材や木造軸組工法の提案を行ってきた。その取り組みの成果が実り、今回改定された木構造設計規範には、木造建築物の構造材として日本のスギ、ヒノキ、カラマツの3樹種が加えられたほか、日本の軸組工法について、新たに「柱と梁」、「壁」、「床組」などに関する基準が設定された。中国でも壁量計算などを用いて簡単に軸組住宅を建築することが可能になる。今回、改定された木構造

設計規範では、3階建て以下、延べ床面積600㎡以下の住宅を仕様規定で建てられることも規定された。中国という巨大マーケットで軸組住宅が建てられるようになることで、大きなビジネスチャンスが期待できそうだ。

情報提供: 創樹社

一戸建て住宅リノベーション事業を近畿圏にも拡大

大京穴吹不動産は、2017年7月1日より「一戸建て住宅リノベーション事業」を「リノテラス(Reno Terrace)」ブランドで展開してきました。このたび、近畿圏で初のリノベーション戸建て事業となります「リノテラス 堺市中区土塔町中古戸建」(堺市、木造2階建て戸建て)を1月20日(土)より販売することになりました。全国の空き家数は、住宅ストック数6,063万戸に対して820万戸に達するといわれています。ストック型社会の実現に向け、「足りないモノ」を「余るモノ」で再生する不動産ソリューションを通じて社会的な課題の解決を図るべく、中期経営計画「Make NEW「一戸建て住宅リノベーション事業」への参入を掲げ、これまで首都圏、中部圏で事業展開をしてきました。近畿圏へ事業拡大し「全国店舗網による仕入体制」「独自の品質保証制度」「一戸建て分譲事業により培ってきた施工管理体制の強み」を活かし、業界トップクラスの販売実績を誇るリノベーションマンション「リノアルファ(Reno α)」と合わせ、**2021年3月期にはリノベーション住宅販売戸数を2,500戸超の規模に拡大します。**



情報提供: 大京穴吹不動産

家の中の我慢できない臭い、1位は「生ごみの臭い」

不動産・住宅サイト『SUUMO(スーモ)』はこのほど、「家の中の臭い、我慢できないものは？」をテーマとした調査を実施した。対象は全国の20～59歳までの男性208名・女性208名。家の中の我慢できない臭いの1位は「生ごみの臭い」(23.8%)だった。「生ごみを捨てる前の夜はつらい」「ゴミ箱を開けるのが嫌」「夏場は虫も寄って来る」などの回答があったほか、「消臭スプレーをふきかけている」「何枚か重ねた袋に入れる」など対策を講じる様子も見られた。2位は「生乾きの洗濯物の臭い」と「排水溝の臭い」(ともに14.2%)、4位は「タバコの臭い」(12.3%)が続いた。

5位は「トイレの臭い」(8.7%)。「夫が立ってトイレをするので、床や壁にニオイがしみつく」「子どもがおしっこをひっかけるので、何回洗っても臭くなる」など、家族のトイレのしかたに腹を立てる声が多数あった。



情報提供: 新建ハウジング